

【～新たなる広島市の創造の為に～】

氏名 前島 修 (印)

I 基本理念『広島市政の現状認識・目指すべき広島市の姿』

(現状認識) 20世紀的価値観による情性
一の百歩 (百は総ての意 百貨店、百科事典、百姓など) 一人のリーダーへの期待、依存度が高い
資本主義経済の崩壊 (日本政府の借金 1000兆円超、団塊の世代への退職金・年金の財源、少子高齢化等を根拠)
所有社会の終わり、地球環境破壊 文明の行き詰まり
(目指す姿) 21世紀的価値観の創造 健康で持続可能なライフスタイル (LOHAS ロハス) の確立
百の一步 みんながリーダー 一人ひとりが自立 天才 (天に与えられた才能) の発揮
自由公生主義による経世済民 (時の支配の理解) 実働重視、地域通貨の導入 (電子マネー デパートのポイント)
共用 (シェアリング) 社会、地球再生 (ユニアース) プロジェクト 新しい環境 (ぶんめい) の創造

II 短期で行う重要施策 (1年以内) ※優先順に3つ

① 食糧政策の強化 輸入依存からの脱却の方向性を探ります
地球温暖化の影響によって世界各地で農業不振、水不足が深刻化
食糧自給率 100%に向けた 100%地産地消運動 農林水産業振興 森を育てることが必然
② ゆとり社会の実現 原則時間外労働の禁止
現代社会は精神が病んでいる 早寝早起きの生活の実現 家族団らの時間確保
広島市歳出削減 年間 25 億円抑制
③ 市民主体の政治の実現 コンセンサス会議の導入 全員参加の広島づくり
平成 21 (2009) 年 5 月までに「裁判員制度」がスタートするように “市民一人ひとりの意見や考えによって住み良い環境づくりを実現させていこう” という社会が到来します。

III 中期で行う重要施策 (4年以内) ※優先順に3つ

① 最新技術の導入による、お金を極力必要としない HIROSHIMA の実現
IC タグによる レンタル社会 所有から共用 (シェアリング) へ ローンからの解放
地域通貨 (電子マネー等) の導入で実働重視
② 揺るぎない広島都市計画の策定
市民参画に基づく百年後を見据えた HIROSHIMA 都市計画 仮想空間に三次元表現
未来の世界遺産となる土木観光事業にも着手 景観重視の調和のとれた広島づくり
③ 「広島平和賞」の創設 8月6日平和記念式典で授与
ノーベル平和賞を上回る世界で最も名誉ある賞として普遍的価値を授け、ヒロシマ継承の DNA を世界に輩出
ピースフル・スタンダードを提唱 広島市を理想空間・地球再生 (ユニアース) シティとして具現化

IV 長期で行う重要施策 ※優先順に3つ

① 首都広島構想 州都広島を首都広島構想の一環として位置づける 首都機能疎減に名乗りを挙げる
広島最適化 人口と面積のバランス 年間の食糧 エネルギー消費など 地球温暖化防止の観点からも
文明のスタンダードを決定 未来から現在を探る、人類の教訓を活かす (歴史鏡としての未来化)
② 調和のとれた街づくり 景観重視 街全体の商品価値を高める
マンションだらけの街から魅力ある街に仕上げていながら観光客を増やす (美観地区として再整備)
目障りな建造物ほとんど解体 未来の世界遺産となる土木観光事業とも平行して進める
③ 食糧自給率 100%、100%地産地消の達成により LOHAS を実現
税金の見直し 農作物の酒粕給付度 (年貢米の実現 お金がなくとも生活できる環境の整備 地域通貨で管理)
ひろしまそだちの拡充 地域の特産品 ブランドの確立からの歳入確保 (日本の農産物は海外で高級品)

広島市長選挙 立候補予定者プロフィール

お名前 前島 修 (まえしま おさむ)

1973年山口県生まれ。18歳で上京。工学修士(東京電機大学)。

6年間の学生生活を経た後、就職を機に広島市民となる。

1998年大手総合建設コンサルタント会社・中電技術コンサルタント株式会社入社。

2000年『遺伝子組換え農作物を考えるコンセンサス会議』中四国代表市民パネル。

2001年広島工業大学非常勤講師(測量学)。米同時多発テロ事件後、平和市民団体「ワールド・ピース・ヒロシマ」発足、代表就任。

詩人。現在に至る。33歳。